

【氏名】

川嶋 辰彦

【所属大学院】(助成決定時)

学習院大学 経済学部 教授

【研究題目】

国際協力ボランティア教育 タイ北部地域に於ける事例とその評価

【研究の目的】

本研究の目的は、「学習院海外協力研修プログラム (GONGOVA)」(草の根的国際協力 NGO ボランティア活動プログラム)を考察の主たる対象に据え、相互に関連する次の4点を論じ、国際協力ボランティア活動の教育カリキュラム立案及び同活動の実践プログラム構築に資することにある。

(1) GONGOVA プログラムが 1997 年の発足以来実施されて来た、タイ国北西部に立地する山岳少数民族ポー・カレン族の居住山村バンメーチャン (2003 年度の GONGOVA <GONGOVA2003> 実施山村) の社会的・経済的・文化的特性。

(2) ボランティアプログラム GONGOVA2003 の活動内容と教育的意義。

(3) バンメーチャン及び同村周辺部に対する同プログラムの社会貢献。

(4) 同プログラムに期待される PPP(Private-public-partnership)の、望ましい姿。

【研究の内容・方法】

共同研究者と行なったバンメーチャンに於ける現地調査結果及び GONGOVA2003 の活動内容を簡潔に纏めると次のとおりである。

タイ国山岳少数民族ポー・カレン族の居住山村バンメーチャンは、メーホンソン県メサリアン郡内の山間部に位置し、標高凡そ 1,000 メートル、人口約 300 人 (世帯数 70) の僻村である。また村人の生業は、焼畑農耕 (厳密には、焼畑循環耕作) を基盤とする陸稲農業に大きく依存している。なお最近、キャベツも重要な農産物のひとつに数えられるようになってきた。GONGOVA 2003 の参加青年達 (日本の大学在学学生及びタイの大学在学学生等合計 25 名) は 3 週間に渡る同村滞在中、換金性果実樹木コーヒーの若木畑整備と苗木移植、簡易水洗便所の建設、簡易水道用貯水槽の建設、小中学校校舎周辺部の施設環境整備 (主として雨季に備えたコンクリート階段作り) 並びにバンメーチャン・ボン (バンメーチャンの分村) の村内測量と地図作成などの諸作業に、村人達と共同で取り組んだ。

同作業は村人たちの協力に加え、現地 NGO カウンターパートであるプリニャ・クニカ氏 (Maehongson Hilltribe Extension and Improvement Programme NGO <MHEIP> 委員長) 並び

にアカデミック・カウンターパートであるチャカパン・ウォングブラナバート氏（チェンマイ大学社会科学部教授、同教授は同大学の大学内 NGO 「Thai Woman of Tomorrow<TWT>」 研究所長併任）の協力を得て、順調に進められた。

【結論・考察】

上記のように進められた国際協力ボランティア活動 GONGOVA2003 を通して参加青年達は、協力対象村落バンメーチャンの生活・社会・経済基盤の改善と自然環境保全に貢献し、併せて、大学の教室内授業では到底達しがたい水準の「国際協調性、ボランティア性、非偏見性、創造性、寛闊性、自立性、及び強靱性」を豊かに涵養し、加えて「持続可能な経済発展と自然環境保全の望ましい兼ね合い点」及び「アジアの途上国社会に対する我が国の役割」に関する認識を一層深め、各々自己啓発及び自己実現の面で大きく成長し、貴重な経験を新たに積んだ。かかる成果に照らして慮ると、GONGOVA の活動プログラムは、大学教育に今日求められている本質的な課題のひとつに確と応えている、国際協力 NGO ボランティア活動教育の試みと言えよう。